

# 育G新聞

Vol.12  
イクジイが日本を元気にする。  
毎月1回連載

育G新聞編集部 編集協力：  
NPO法人 フザーリング・ジャパン  
NPO法人 孫育て・ニッポン

## 育G インフォメーション

ワークショップコレクション9  
～こどものためのワークショップ博覧会～

【日程】3月9日(土) 11:00~17:00  
10日(日) 10:00~17:00  
※両日とも入場は16:00まで

【参加費】無料

【場所】慶應義塾大学 日吉キャンパス  
第4校舎独立館、第4校舎

【出展数】約90のワークショップが出展します。

【問合せ】ワークショップコレクション運営事務局  
(NPO法人CANVAS内) 03-6456-1929

【web】[www.wsc.or.jp/WSC.html](http://www.wsc.or.jp/WSC.html)

パパママ じいじばあば  
家族み~んなで子育て&孫育て  
講演会と朗読と落語の会

【日時】3月10日(日) 14:00~16:00

【参加費】無料

【場所】山梨市民会館ホール

【対象】小学生以上

(未就学児は託児をご利用ください)

【問合せ】山梨市役所 福祉事務所 子育て支援担当  
0553-22-1111(内線 1151・1152)

【詳細】[www.city.yamanashi.yamanashi.jp/gover/  
magazine/yamanashi/files/koho1302\\_24.pdf](http://www.city.yamanashi.yamanashi.jp/gover/magazine/yamanashi/files/koho1302_24.pdf)

# 育G登見

No.12

NPO法人 スーパーサイエンスキッズ理事長  
日本ヒューレット・パッカード株式会社 部長  
瓜谷 輝之さん



ITビジネスの最前線にいながら、その延長線上でNPO法人を立ち上げ、自ら子どもたちの科学の力を伸ばすワークショップのファシリテーターもこなす瓜谷輝之さん。

◆NPO法人「スーパーサイエンスキッズ(SSK)」を立ち上げたきっかけは?

‘パソコンの父’と呼ばれるアラン・ケイ博士との出会いがはじまりです。当時、会社で社会貢献担当をしていたのですが、ある時、京都の小学生たちにケイ博士がワークショップをおこなっていたんです。それを見て「これは僕らの得意分野、できるんじゃないかな」と。ためしに社内で「子どもたちとワークショップをやってみたい人」とボランティアを募ったら、いきなり100人集まってしまった。それから体制を整え、試行錯誤を繰り返しながらワークショップを続けてきました。

◆どんなワークショップなのでしょうか?

ケイ博士がつくったすばらしいソフト「スクイーク Etoys」を使って、実際にプログラミングを学習してもらいます。プログラミング、というと難しいものと思いつがちですが、たとえば、「クルマが道からはずれないように走る」というのはロボット制御の基本にもなっているプログラムですが、実は子どもでもすぐにできるんで

す。子どもの創造性は大人が考えるより、はるかにすごい。みなさん驚かれるのですが、初めての子が4時間も集中してやっていたりします。本来PCは、創造性を広げるために生まれたものだったのに、いまや単なる作業ツールになってしまっている。僕らのワークショップの副題は「明日のダ・ヴィンチを探せ!」です。PC本来の役割を取り戻して、子どもたちが持っている「サイエンス×アート」の力を伸ばしていかなければと思っています。

◆活動が広がっているそうですが。

地域振興の観点からもお誘いがあって各地でワークショップを開いていますが、シニアの方々の知識欲はすごく高いです。僕は、子どもとシニアが合体して学ぶ場をつくれないかなと思っているんです。シニアは、ちょっとパターン思考をしそぎるところがあるんですが、子どもたちといっしょだと「自分も学ぶ」という姿勢に戻りやすい。ジイジと孫という組み合わせは、いっしょに学ぶのにちょうどいいんだと思います。それに、親よりも少し距離をおいて支援者の立場で接することのできるジイジのほうが、孫の才能を見出すチャンスがあるんじゃないかとも感じます。

アメリカのMITメディアラボには「ライフローライン キンダーガーテン」という開発グループがあり、これには「植物が育つように、個性を伸ばす場」という意味が込められています。将来、日本全体をキンダーガーテンにしよう、というのが僕の大きな夢ですね。

<http://www.supersciencekids.com/>

# 育G潮流

## イマドキの子どもたちの体力事情

陸上、水泳など、日本人選手の記録も、世界のトップレベルにあるものの、子どもたちの体力は昔に比べ、下がっているという。

ジイジ、バアバ世代の調査データがないので、イマドキの子どもとパパ・ママを比べてみると、体格は良くなったのにもかかわらず、ほとんどの項目でパパ・ママ世代を下回っているという（文部科学省 新体力テスト）。親世代の昭和56年度の11歳と平成23年度の11歳を比較してみると、イマドキの子どもの50メートル走の記録は、男子8秒9、女子9秒2で、パパ・ママ世代に比べ、男の子は-0.1秒、女の

親世代・子ども世代 体力比較表	男子		女子	
	親の世代	イマドキの子ども	親の世代	イマドキの子ども
身長(cm)	142.8	145.0(2.2↑)	145	146.7 (1.7↑)
50m走(秒)	8.8	8.9(0.1↓)	9	9.2 (0.2↓)
ソフトボール投げ(m)	34.6	29.7(5.1↓)	20.8	17.5 (3.3↓)

※親の世代は昭和56年度の11歳、イマドキの子どもは、平成23年度の11歳

※全国平均値は、小数点以下第2位で四捨五入

子は-0.2秒。ソフトボール投げは、もっと下がり男子は、-5.1メートルで29.7メートル、女子は-3.3メートルで17.5メートルとの結果だった。

しかし、ここ数年少しづつではあるが体力回復の兆しもあるという。平成23年度の調査では、中学男子の50メートル走の平均記録は7秒83で、調査開始の昭和39年度以降、最速の記録だった。

公園でのボール遊び禁止にはじまり、

空き地での遊び、塀のつたい歩きなど、昔子どもたちが日常行っていた遊びは禁止され、遊びの中で体力をつけることが難しい世の中になってきた。車社会も成熟し、防犯の面からも保護者が子どもを車で送迎する機会も増え、日常歩く機会が減っている。

イマドキの子どもたちの体力向上にも、育Gの力を発揮できる機会がありそうだ。  
(NPO法人孫育て・ニッポン 理事長 ぼうだ あきこ)

# 育Gアドバイス

育G stylist G・ハヤシがアドバイス  
「孫といっしょにワークショップへGO!」

「育G発見」にご登場いただいた瓜谷さんから、ワークショップに孫と参加するコツを教えていただいた。



孫のかくれた才能を引き出すのは、あなたかも！？

★ 「教えてあげる」のではなく、「いっしょに楽しむ」という気持ちで。

★ 孫をダメに、自分がやってみたかったテーマを選んで参加してみる。  
たとえば「クッキング」とか「楽器演奏」というように。

★ とにかく参加してみる。育G仲間やパパ友、ママ友も増えるかも！  
人生経験豊富な育Gだけに「教えすぎないように注意！」

# 育Gの極意



子ども向けサイトを活用して  
おうちワークショップにチャレンジ！

イベントやワークショップに出かけ、一緒に体験する醍醐味もありますが、ちょっとしたワークショップならお家でも簡単にできます。自分の経験から孫と一緒に楽しみながらできることもたくさんあるとは思いますが、ネタに困ったときにおすすめなのが「yahoo きっず」などの子ども向けサイト。簡単にできる実験、工作、遊びなどの情報が満載です。

自分のやり方でやるも良し、子ども向けワークショップに参加してみて、コツを学んでからでも良し。お家でやるワークショップは、孫が飽きたらやめたり、いつでも休憩できるところもいいですね。